

「サンゴ礁域」と「サンゴ群集域」の考え方（案）

1. サンゴ礁域とサンゴ群集域の範囲

主に熱帯性の生物である造礁サンゴ類の成長速度は、海水温や日照などの条件によって大きく左右される。亜熱帯域である沖縄県や鹿児島県南部等の低緯度地域では、サンゴの成長が速くサンゴ礁地形を形成するが、温帯域である九州以北の高緯度地域では、水温が低いために成長速度が遅く、サンゴ群体や群集としては存在するがサンゴ礁地形は形成しない。その境界線はおおよそ冬季の月間平均水温の最低値が 18℃のラインであると考えられており（*1）、日本ではトカラ列島がその境界に当たる。

本計画の策定では、トカラ列島以南のよく発達したサンゴ礁の形成が見られる造礁サンゴ類の生息域を「サンゴ礁域」と呼び、それに対してトカラ列島以北のサンゴ礁の形成が見られない造礁サンゴ類の生息域を「サンゴ群集域」と呼んで便宜上それぞれ区別する。

2. サンゴ礁域とサンゴ群集域の比較

下表に、サンゴ礁域とサンゴ群集域の主な相違点を比較した。

	サンゴ礁域	サンゴ群集域
海水温（目安）	最寒月の平均水温が 18℃以上	最寒月の平均水温が 18℃以下
地理的分布	小笠原諸島、琉球列島、トカラ列島、尖閣諸島、大東諸島	九州、四国、紀伊半島、伊豆半島、房総半島、伊豆諸島、隠岐諸島、壱岐・対馬
関係都道府県	東京都、鹿児島県、沖縄県	東京都、千葉県、神奈川県、静岡県、三重県、和歌山県、島根県、徳島県、高知県、愛媛県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県
面積（*2）	96023.3 ha	28549.1 ha （被度 5%以上、面積 0.1ha 以上のサンゴ群集の合計）
保護区面積 （環境省所管）	3273.5 ha	848 ha
面積に占める 保護区の割合	3.41 %	2.97 %
造礁サンゴ種数	約 415 種（*1）	約 200 種（*3）
魚類種数	354（西表島崎山湾）（*4）	884（柏島）（*5）
漁業資源利用	サンゴ礁性魚介類・海藻類が地域住民主体に消費されており、地域経済でも一定の割合を占	サンゴ群集に生息する魚類は漁業資源としての価値が比較的低い場合が多い。

資料 1

	めている	
観光・レクリエーション利用	サンゴ礁・マングローブ等が観光資源として様々に活用されている。	近年、地元自治体や地域の団体による、サンゴ群生地を目玉にした地域興しが盛んになりつつある。
海岸線・国土の保護	沿岸地域を波浪から保護するのに役立っている	—
生活・文化	サンゴ礁は地域住民にとって身近な存在で、生活・文化に深く関わっている	サンゴ群集は存在自体があまり認知されていない場合が多く、生活・文化との関わりも少ない

3. 行動計画におけるサンゴ礁域とサンゴ群集域の考え方（案）

<サンゴ礁域>

サンゴ礁域では、住民は生活・文化・経済等においてサンゴ礁に大きく依存している。そのため、健全なサンゴ礁生態系の存在は、これらの地域の持続・発展にとって重要である。一方、サンゴ礁は人口増加等に伴う地域的に様々な負荷要因の増大と、海水温の上昇に伴う白化現象の頻発化等グローバルな影響の両方を複合的に受け、近年はその存続さえ危ぶまれつつある。サンゴ礁域では、本計画の策定を通してサンゴ礁の保全に取り組む必要がある。

<サンゴ群集域>

温帯域におけるサンゴ群集は、サンゴ礁域と比べて規模的にも小さく、社会的な関わりも相対的に薄い。

近年、グローバルな環境の変化による水温の上昇により、サンゴが増えるという現象が温帯域の各地で見受けられるが、サンゴの増加に対する受け止め方は、地域やサンゴとの関わり方によって異なる。一方、サンゴ群集は移動性が低いこと、環境の変化による影響を受けやすいことから、主に陸域からの影響による地域的な群集の衰退も多く見られる。このため、地域的な群集の衰退に着目した場合、サンゴ群集は、沿岸域の環境の健全性を示す指標としての役割が期待できる。

そのため、本計画においては、地域の自然環境・生活・経済等において、サンゴ群集の有効な価値が広く認められる場合においては、サンゴ群集の保全に総合的に取り組むものとする。また、その他のサンゴ群集域では、サンゴを健全な沿岸生態系の指標とし、サンゴが生息できる良好な「環境」の保全が重要であると位置づけ、できる限りサンゴ群集の生息する「環境」の保全に取り組むものとする。

資料 1

<参考資料>

- *1 「日本のサンゴ礁」 環境省・日本サンゴ礁学会編
- *2 「1994年 第4回自然環境保全調査 海域生物環境調査報告書 第3巻 サンゴ礁」
による1990～1992年実施の調査結果より。
- *3 EIC ネット <http://www.eic.or.jp/>
- *4 吉野哲夫 (1990) 西表島崎山湾の魚類相. 崎山湾自然環境保全地域調査報告書,
pp193-225, 環境庁自然保護局
- *5 平田智法・山川 武・岩田明久・真鍋三郎・平松 亘・大西信弘 (1996) 高知県柏
島の魚類相・行動と生態に関する記述を中心として. Bull Mar Sci Fish, Kochi Univ,
15 : 1-177

資料 1